

基本理念の実現に向けて

**「気づき、つながり、支え合う、
たつせがあるまち ながくて」
⇒住民、事業者、市職員のお互いが顔
の見える関係になる。**

学習会の目的

- 1 地域の福祉関係者(自治会役員、民生委員児童委員等)が話し合える場づくり
- 2 地域にいる人材の発掘
- 3 社協が地域で困り事に対応するネットワークづくり

地域で支えるネットワークのイメージ図

制度支援
福祉サービス

主治医の先生

行政

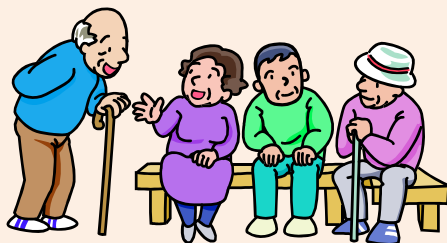
NPO法人

子育て支援センター
児童相談所



社会福祉協議会
(地区社協)

ケアマネージャー
成年後見人



福祉事業所

地域組織
(民生委員・自治会・ボランティア)

地域包括支援センター

地区社協のイメージ図

市職員(地域担当)

自治会

CSW(社協職員)
(コミュニティソーシャル
ワーカー)

本人や家族の意向をもとに、
フォーマルサービスだけでなく、
インフォーマルサービスにつ
なぐことで、「地域のちから」で
問題を継続的に支援できるよ
う調整する専門員。
個別相談も行う。

シニアクラブ

地域のひと

民生委員・児童委員

見守りサポーター

子ども会

CSWの必要性

これまで..



行政による個別支援には、時間もお金もかかる
→財政の逼迫・総合的支援が難しい

**困っているひとが、ひといいれば、
同じことで困っているひとが10人いる。**

引きこもり

引きこもり

引きこもり

引きこもり

引きこもり

地域支援ができるようになれば、同じ困りごとに地域で支えることができるようになる。

→困っているひとと継続して、地域で安心して暮らせる

→支えるひとが、支えてもらえる側になっても安心できる

この調整を
図るのがCSW

学習会で何をするのか？

取組1 CSWがどのように、地域で働けばよいか？
⇒社協に何をしてほしいかを考える。

場所は？

公民館、会合の場、
地域共生ステーション…

いつ？

毎日、週に何回…

何をする？

相談にのる、
話を聞く…

例えば…

具体事例(認知症・うつ病・孤立
死など)もとに対応を検討

実現するためには？

どのように地域が連携する
必要があるのか…

取組2 地域の人材を発掘する

⇒今後、地域活動に参加してくれそうな人を探す。

例えば…

地域の人たちが、学生や職員と一緒に地域を回ってアンケート調査(インタビュー)を行うことで、新たな人や人のつながりを発見するきっかけとする。